

## 第3章 都市整備上の課題

---

特性や市民アンケート調査結果、上位計画などを踏まえ、都市整備上の課題を次のように整理します。

### (1) 少子高齢化社会への対応を踏まえ、地域の特性に応じた暮らしやすい環境の充実

少子高齢化が進み、人口の減少に歯止めをかけることが求められています。特に、市街化調整区域や都市計画区域外においては人口減少率が高く、地域コミュニティの活力を保持、充実するため、定住を促進することが重要になっています。

市街化調整区域内の人口減少の要因の一つとして、宅地開発や建築行為を規制している事が考えられます。市民アンケート調査結果では、宅地開発や建築行為を制限することについて、“問題がある”、“必要性が低い”とする回答が多く、その制限については、“農村部等では宅地開発を制限しない”、“市全域で住宅建設を制限しない”などの方策が望まれています。

市街化区域内に未利用地などが残存しています。市内に常住する就業者数が減少していることから、多様な就業場所や良質な住宅地といった定住環境の向上が求められており、未利用地などを活用して良好な住宅地や事業用地を供給することが求められています。

また、中心市街地でも人口減少と高齢化が進展し、空き家、空き店舗の増加による活力の低下や、密集住宅地には狭あい道路や老朽化住宅などが存在し、中心市街地の再生が求められています。

誰もが、安全・安心、快適に暮らせる定住環境の向上や、安心できる医療・福祉の充実など、地域の特性に応じた暮らしやすいまちづくりを進めることが必要になっています。

### (2) 環境負荷の低減に配慮し、都市機能の集積や日常生活支援機能を集約した都市構造の構築

主要な公共公益施設、保健・医療施設、大型小売店舗は市街地に集積していますが、中心市街地では空き地や空き家の問題、また人口減少の問題なども発生しています。

市街地の活性化を図るため、効率的、効果的な土地利用により、有機的な都市構造の構築が必要になっています。

また、良好な交通アクセスを活かした、市街地と交通の要衝を結ぶ沿道の有効的な土地活用は、特に自動車依存率の高い本市において、地域の活性化や市民の利便性の向上に効果的な手段の一つと考えられます。

農村部や山間部には、豊かな自然と調和した集落が点在しています。これらの地域は特に人口が減少し、高齢化が進み、身近な生活圏内に日常生活上の諸機能を配置することが望まれており、豊かな自然環境に配慮した都市機能の充実が必要になっています。

### (3) 産業の基盤強化による誘致・振興及び雇用の確保

本市の工業は、京都府平均や周辺都市と比較し事業所数、従業者数が共に上回っていますが、製造品出荷額等が低下する傾向がみられます。商業は周辺都市とほぼ同規模の集積を有し、年間販売額は微増しています。

本市は、舞鶴若狭自動車道や京都縦貫自動車道などの良好な交通アクセスに恵まれ、平成26年度には京都縦貫自動車道丹波・京丹波わち間が完成し、北近畿有数の高規格道路網の結節点となります。また京都舞鶴港は日本海側拠点港に指定され、京阪神地域や全国の主要都市と物流可能な産業活動の拠点都市として更に発展する可能性があります。

このような状況から、今後とも産業構造を取り巻く社会・経済情勢を的確に捉えつつ、既存の産業活動の活性化とともに、新たな企業の誘致による多様な産業構造の構築をめざし、産業の基盤を強化して工業、商業の振興と雇用の確保を図ることが必要になっています。

また、本市の農林業は従事者の高齢化、後継者不足などにより、農家数や経営耕地面積は減少し、森林の荒廃が進み厳しい状況になっています。

市民アンケート調査で満足度の高い自然環境、農業環境・田園風景などを守り続けるためにも、農林業は農業経営の活性化や法人化、農業後継者やUIターンなどの新規就農者を支援し、森林の保育や間伐などを計画的に進め、森林環境の整備を図ることが必要になっています。

### (4) 都市施設の充実による利便性の向上

集約型の都市構造を構築する上で、市街地内、市街地と地域集落間、また、交通の要衝間の幹線道路網を充実して連絡することが重要になっています。

本市の都市計画道路の一部は長期間、未着手や未整備の状態にあり、都市計画道路の必要性や実現性などを検証し、効率的で効果的な整備を進めることが必要になっています。

また、本市の公共下水道の普及率は、近隣市や京都府と比較しても依然低い水準にあり、早期の計画的、効率的な整備が求められています。

誰もが安全安心に、住みやすく、快適で便利な生活を行うために、道路、公園、上水道、下水道などの都市施設を計画的に整備充実し、利便性を高めていくことが必要

になっています。

#### **(5) 豊かな自然環境の保全と活用**

本市は由良川沿いに市街地が形成され、犀川、八田川、上林川、伊佐津川沿いの平坦地に集落地や農地が続き、その周囲に緑豊かな山林が広がっています。また、美しい水や森林など豊かな自然や里山は、レクリエーションや癒しの場としてだけでなく、都市住民との交流の場としても、貴重な役割を担っています。

市民アンケート調査でも、居住している地域の自然環境、農業環境・田園風景など、自然環境や風景に関する項目の満足度が高くなっています。

このことから、本市が有する自然環境・景観を保全し、次世代に継承していくことや、豊かな自然環境を活かした地域づくりが求められます。

#### **(6) 自然災害や都市災害に備えた安全な都市環境の確保**

平成7年1月に阪神・淡路大震災、平成23年3月には東日本大震災が発生し、安全の確保は人々の生活や都市活動の前提として欠くことができない課題になっています。また、近年では市街地においても豪雨による浸水が発生しています。

これらのことから、自然災害・火災・各種事故への安全対策を進め、安全な都市環境を確保することが必要になっています。